

平成 29 年度 工芸科学部 学位記授与式
学長告辞

本日ここに、卒業式を迎えられた皆さんに対し、大学を代表して祝意を表するとともに、皆さんをこれまで、支え、育ててこられたご家族の皆様をはじめ、本日駆けつけていただいた関係者の方々に対し、心からお祝いを申しあげたいと思います。そして、君たちが明日からの新たな一歩を歩み始めるにあたり、「松ヶ崎から世界に飛翔せよ」これを卒業生の皆さんへのはなむけの言葉としたいと思います。そして京都工芸繊維大学もまた君たち卒業生とともに、世界に羽ばたき、飛翔しようとしています。

京都工芸繊維大学は、強い個性を有する工科系の国立大学として、近年、急速に社会的な認知度を上げています。2013 年には文部科学省「知の拠点整備事業COC」、つづいて2014年には「スーパーグローバル大学創生支援事業SGU」、さらに2015年にはいわゆる「COC+事業」に採択されました。

また、リクルート進学総研が高校生を対象に行った「進学ブランド力調査」では、ここ数年来、志願度も上昇しています。一方、日経キャリアが行った全上場企業対象の「企業の人事担当者から見た大学のイメージ調査」、つまり就職力ランキングにおいて、全国国公立大学 800 校中総合 17 位、独創性において第 7 位の評価を得ています。朝日新聞の調査では、本学の学生は勉強時間の長さではベスト 10 に入っています。また、全日本学生フォーミュラ大会においては過去 5 年間に優勝 2 回、準優勝 1 回、5 位が 2 回と、本学学生の技術力の高さが示されました。

さらに本学の教育方法は、日本機械学会教育賞、日本建築学会教育賞を受賞したことなどにみられるように、学会や社会から高く評価されています。我々の行っている大学教育の成果が社会から認められ、高校生からも企業の方からも高い評価が得られていることは大変喜ばしいことであり、本学学生の皆さん、卒業生の皆さんの勉学や学習の努力を私たちは大変誇りに感じています。本日卒業される皆さんも自信と誇りを持ってこれからの人生を歩んでいただきたいと思います。

本学は文部科学省からの支援を得て、ユニット招致と呼ばれる方法でケンブリッジ大学やスタンフォード大学、あるいはスイスのETHや英国のRCAといった海外の有力大学から講座やグループを招聘し、共同研究や共同教育を行っています。また、タイや英国にオフィスを開設し、海外インターンシップや交換留学の拠点として活用しています。タイのチェンマイ大学とジョイント・ディグリー制度によって大学院に新専攻を開設し、今年4月から共同教育を実施します。またバンコクにおいてキングモンクート工科大学産学連携センターに共同研究の拠点を開設し、ラジャマンガラ工科大学においても教育研究拠点を開設しています。日本国内では、京都府北部の京丹後市サテライトキャンパス及び新シルク産業創造館、綾部市では綾部地域連携室、福知山市には福知山キャンパスを設置しました。

こうした大学活動の盛り上がりと活性化を好機とし、私たちは世界に冠たる大学になろうとしています。卒業生の皆さんも、海外で活躍できる人材、現場でリーダーシップを発揮できる人材、我々が「テックリーダー」と呼ぶ人材として大いに活躍していただきたいと考えています。

本日の学位記授与式にあたり、京都工芸繊維大学が掲げる理念を踏まえ、「科学と芸術」、「知と美と技」について、社会におけるリーダーシップについて、学術文化の領域における知性と反知性という立場について、今一度、深く考えていただきたいと思います。

我々理工系大学にとって、論理的思考や知的思考は大変重要な営みですが、そもそも、技術、工学、ものづくりと知的活動はどのような関係にあるのでしょうか。

興味深いことに、ギリシャの昔、プラトンやアリストテレスといった哲学者は、自らを建築家になぞらえて、哲学を知の建築とみなそうとしました。また、ユークリッドは幾何学を5つの公理に基づく厳密で堅固な建築にしようとしたのです。幾何学は諸科学の基礎として、自然から分離した純粹にして厳密な知の体系と考えられたのです。西洋の文化的伝統はこのように、知の建築を建設しようとする野心に満ちています。物理学や経済学など、個別諸科学の基礎としての数学は実行上有用です。それだけでなく、西洋における文化的危機を乗り越えるために、合理的で論理的な知の構築物が企画されてきたことは重要です。

一方、近年、日本でも反知性主義という言葉が聞かれるようになり、社会の病理を表す言葉として流通しています。例えば、学生は本を読まなくなった、大学は就職予備校に成り下がった、といった知的な活動とは反対の現象をさす意味に使われています。

そもそも反知性主義という言葉は、50 年ほど前に出版されたアメリカのキリスト教に関する専門書に由来します。森本あんりは、彼の近著「反知性主義」において、反知性主義とは、本来は、社会の健全さを示す言葉であることを指摘しています。例えば、かつてアメリカの教会で説教できる牧師は、ハーバード大学かイエール大学を出た人でなければならないとされていました。しかしながら、信仰は教育のあるなしに左右されないはずである、という神の前での平等によって知的権威主義は批判されました。神の真理は学問のあるなしにかかわらず、誰もが理解できるものでなければならない。キリスト教に限らず、およそ宗教には「人工的に築かれた高慢な知性」よりも「素朴で謙虚な無知の方が尊い」という基本的な共通感覚があります。このように知的権威への批判がなされ、反知性主義が生まれてきたのです。

しかし、反知性主義は、やはり戒めなければならない態度でもあります。反知性主義とは「実証性や客観性を軽視し、自分に都合のよい解釈をする身勝手な態度」あるいは「安易で浅薄な判断や姿勢」を意味しています。こうした反省のないホンネ主義は、知性が備えるべき客観的検証を行わず、また公共の場における対話を拒否する独りよがりな立場です。

にもかかわらず、人々の感情を煽るポピュリズムにおいては、「本ばかり読んでいる学者」を批判し、知性を軽蔑する言動が一部の人から支持を得ているのです。その背景には、知性の持つ狭量さ、劣化した知性、人間味を欠いた知的権威主義への嫌悪が潜んでいます。

このように激しく流動化する今日の世界において、知性と反知性がぶつかり合い、互いの批判が複雑に交錯しています。こうした状況にあって私たちの活動基盤はどこにあるのでしょうか。今日の日本社会において、劣化し続ける知性を救済できるもの、それは総合的な人間力です。それはまさしく「知と美と技」の3技能を立体的に活用できる君たち自身です。

京都工芸繊維大学の教育研究の柱は「科学と芸術」ですが、科学と芸術を橋渡しするために、「知と美と技」はどのような役割を果たすのでしょうか。

私たちは、実践的な教育研究活動を通じて技を磨いてきました。その技は、社会に有用な材を生み出すために、活用しなければなりません。実践的なものづくりは、日々の生活を改善し、社会のあり方を変革していくために有効な社会的財産を創出することです。人工知能や人型ロボットを、一日も早く我々の社会生活に実装しなければなりません。車の自動運転や介護ロボットによって、私たちの人生のあり方、100歳におよぶ長寿命人生の内容を大きく変えることになるでしょう。

同じく私たちが磨いてきたその技は、美的な価値を生み出すために活用されなければなりません。美的なものづくりは、ギリシャ彫刻やパルテノン神殿に見られるように、時代を超えた価値の創造、有用性を越えた文化的な価値を創出することを目指すことになるでしょう。

芸術的な営みは、個人的な精神活動とみなされてきましたが、芸術を個人的な趣味の領域から解き放ち、時代を切り開く社会的な力に変換していくためには、科学的思考が有効であると考えます。一方、科学は事実に基づく客観的思考を旨とし、主観的な判断を伴わない営みのように言われることもありますが、実際には、感覚や直観的判断、そしてその先にある感動を求めて日々の活動を行っていることに留意すべきです。

ハンナ・アーレントはその著「人間の条件」において、人間の営みを、労働＝レイバー、仕事＝ワーク、活動＝アクション、の3つに分けて論じたことはよく知られています。

とりわけ特徴的なのは、活動という営みです。仕事や労働は、自然や物質を対象として有用な資材を創り出す営み、生活のために必要な労働といった面を持ちますが、活動というのは人間を対象とした営みであり、人間同士の直接的な対話を基盤とする営みのことです。人間は一人一人が個性を持つ異なる存在ですが、同時にコミュニケーションが可能な同質性を有しています。この異質性と同質性をもつ多様な人々の中で、私たちは「知と美と技」を磨き、ものづくりを行っていくことになります。

私たちは、多様性を不合理なものの集まりと見なしてはならないと思います。多様性を切り捨て、多様な価値観を単純で型にはまった解釈や短絡的で身勝手な解釈に閉じ込めてはならないと思います。実証性を軽んじ、自分に好きなものだけを取り出す態度や自分に都合の良いように世界を理解する態度は現に慎まなくてはなりません。

その上で、卒業生の皆さんには、科学技術に立脚したグローバルな「テックリーダー」として、遠くを見つめ、広く世界を見渡し、勇気ある決断、責任ある判断を行える人材を目指していただきたいと思います。

京都工芸繊維大学は、京都蚕業講習所および京都高等工芸学校に端を発する118年の歴史の中で、「知と美と技」を探究する独自の学風を築きあげてきました。この栄光の歴史に新たな一頁を加えるべく、豊かな人間性にもとづく技術の創造をめざして技を極め、人間の知性と感性の共鳴を求めて知と美の融合をめざし、教育研究の成果を世界に発信していきたいと思います。

本日卒業される皆さんの、今後のさらなる飛躍と発展を祈念してお祝いの言葉といたします。

平成29年3月24日
京都工芸繊維大学長
古山 正雄